

参加費

一般早割 ￥4,000 (2日間)

- ・2020年1月31日中お申込みまで有効。以降は¥5,000。
- ・2月15日のみの参加の場合は¥2,500になります。

学生・若者 ￥1,000 (2日間)

- ・若者区分は自己申告制となっております。若者であっても当活動をご支援いただける方は、一般料金を選択いただければ幸いです。その他、一般料金の難しい方はご相談ください。

ご希望の方はお申し込み時に選択してください

大会終了後に発行する報告集 ￥1,000

お申し込み

オンラインで申し込む

こちらのサイトからお申し込みください。
クレジットカード、コンビニ、ATMでお支払ができます。

Peatix

<https://jyc2020.peatix.com/>



電話・FAXで申し込む

必要事項をご連絡いただきましましたら、事務局より振り込み先等をご連絡しますので、参加費をお振込みください。

Tel 028-678-4745 Fax 028-678-4746

必要事項

- 参加区分 (一般 / 学生・若者)
- 参加希望分科会 (1・2日目)
- 氏名 ご職業 メールアドレス
- 年齢 電話番号 ご住所
- 2日目のお弁当 (¥1,000)
- 大会終了後発行する報告集 (¥1,000)

会場へのアクセス



JR宇都宮駅からシャトルバスで

JR宇都宮駅から出発の予定。詳しくはホームページを確認。約20分。

JR宇都宮駅から路線バスで

- JRバス
JR宇都宮駅西口3番乗り場より「清原台団地行」か「清原球場行」に乗車し「清原高校」下車。約20分。
- 東野バス
JR宇都宮駅西口14番乗り場より「清原球場行」に乗車し「作新学院大学・清原高校前」下車。約20分。

自動車

北関東自動車道 宇都宮上三川ICより約20分。駐車可能台数300台。

協賛募集

当大会は、多くの皆さまからのご協賛によって支えられています。協賛いただいた個人・企業様につきましては、当日配布する冊子(約1,000部発行予定)にお名前や広告(企業協賛の場合)を掲載させていただきます。

5,000円、10,000円、20,000円、40,000円、80,000円(広告のサイズに違いがあります)

一口1000円からの個人協賛もあります。詳細は現地事務局までお問い合わせください。

お問合せ

現地事務局

一般社団法人栃木県若年者支援機構
〒320-0032 栃木県宇都宮市昭和2-7-5
Tel 028-678-4745

全国事務局

一般社団法人若者協同実践全国フォーラム
〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1
早稲田大学文学学術院 阿比留久美研究室気付
Mail info@jycforum.org

実行委員・ボランティア募集

当大会の運営は、多くのボランティアによって行われます。ひきこもり問題に普段から関わっている方、若者の抱える問題を解決していきたい方、当事者の方、様々な方の参加をお待ちしています。詳細は現地事務局までお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

ホームページ・SNSもチェック!

<https://jycforum.org>



第15回

全国若者・ひきこもり 協同実践交流会 inとちぎ

権利としての若者協同実践を目指して
ともに学び、ともに育み、ともに創る、今ここで出会う私たち

2020

2/15土 **2/16**日
12:30-20:00 9:30-17:30

《会場》
作新学院大学
宇都宮市竹下町 908

《参加費》
早割 ¥4,000
通常価格 ¥5,000
学生・若者 ¥1,000

若者協同実践とは?

若者を「支援」を受ける客体としてではなく、**社会をつくっていく主体**として捉え、ともに生きやすい社会をつくりだすために、支援者・研究者・行政・市民・家族・そして若者が**対等な関係で織りなす営み**を若者協同実践と言います。



悩んで、ゆれて、それでもゆっくり歩いていこう

不登校、ひきこもり、いじめ、そしてニート・・・。当事者となる子どもや若者たちは、身の回りの人間関係や環境だけでなく、様々なことに影響され追込まれていきます。第15回を迎える「全国若者・ひきこもり協同実践交流会」では、そういった個々に寄り添った視点から社会情勢までを見据えたマクロな視点までを踏まえ、これまで全国で蓄積されてきた支援ノウハウや当事者の声、そして未来を見据えた議論な

ど、子ども・若者の支援に「いま必要とされる全て」を参加者と当事者のみなさんと共有します。「生きづらさ」は、決して当事者だけの問題ではありません。家族・支援者・行政・民間といった枠を超えて、一步一步「当事者とともにみなで悩みながらゆっくり歩いていく」、そんな会を作っていきます。



実行委員長 陣内 雄次

Day1 2月15日(土) 12:30-20:00	12:30	オープニングイベント	13:35	全体シンポジウム(90分)
	12:45	開会挨拶	15:05	全体会終了
	12:55	大会概要説明	15:30	課題別分科会・交流会(150分)
	13:00	基調報告	18:00	交流懇親会(120分)
	13:30	小休憩	20:00	終了

13:00～15:05 基調報告・全体シンポジウム / 作新清原ホール

権利としての若者協同実践をめざして

自己責任の圧力が強い社会のなかでは、生きづらさを口にするのも難しく、支援を受けることのハードルも上がりがちです。それに対し、本来「あってあたりまえ」の権利として「若者協同実践」を位置づけていくために必要なことは何か、多様な角度から考えます。

<p>基調報告者</p> <p>古村 伸宏 日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会 / JYCフォーラム 代表理事</p>	<p>コーディネーター</p> <p>塚本 竜也 NPO法人トナギ環境未来基地 代表理事 / 一般社団法人 栃木県若者支援機構</p>	<p>シンポジスト</p> <p>両角 達平 文教大学 若者政策研究者</p> <p>岡部 茜 大谷大学 社会福祉研究者</p> <p>鈴木 綾 こおりやま 子ども若者ネット</p>
--	---	---

15:30～18:00 課題別分科会・交流会 / 第3教育棟

権利 自己責任を越えて若者を社会の担い手にー若者協同実践への道筋

若者が感じている困難は、社会的・構造的な課題でもありますが。そうした若者にとっての展望の見えなさは、さまざまな権利が侵害されているといえる実態を示しています。こうした実情に照らして、今後求められる社会のあり方について考えます。

コーディネーター	佐藤 洋作	認定NPO法人文化学習協同ネットワーク/JYC 共同代表
スピーカー	松宮 徹郎	日本弁護士連合会
	宮本 みち子	放送大学 / 千葉大学名誉教授

労協法 ないなら、つくろう！協同で働く自分たちの職場(仕事)

若者協同実践の「実践」には、「働く」が含まれていると思いますが、協同して働く姿をイメージできますか？企業利益のために使い捨てられる労働ではなく、働く人が主人公となって協同する働き方を探っていきます。

コーディネーター	利根川 徳	労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会
	小白井 加代子	労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会
コメンテーター	古村 伸宏	労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会/JYC 共同代表
スピーカー	ワーカーズコープ矢板・りんごの木 / 創造集団 440Hz	

10代会議 10代の私たちだからこそできること、語れる未来

「若者は何を考えているの？」と言われた、思ったことはありませんか？ですが、20年後の未来をつくるのはその「若者」であることは事実です。若者はここで本音の議論を。大人はその本音に向き合ってみませんか？

コーディネーター	土橋 優平	NPO法人キーデザイン
	大河原 有佳	ふくしまフリンジ
スピーカー	野澤 こなつ	不登校の今を大切にしている ing 10代の実践者たち(調整中)

8050問題 8050問題を考えるー孤立を防ぐつながりづくりとはー

ひきこもっている方とその家族の孤立によって生じていると考えられる「8050問題」。その孤立を防ぐには、どうしたら良いのでしょうか？緩やかな人と人のつながりづくりとは？現場の取組みから学び合います。

コーディネーター	山本 耕平	立命館大学/JYC 共同代表
スピーカー	横塚 京子	佐野市ひきこもりサポーター
	太田 八重子	佐野市ひきこもりサポーター
	津布久 久枝	佐野市役所 保健師

評価 同じ舟に乗り、考える！若者の権利に役立つ評価とは？

昨今、私たちは、若者の権利保障に役立つ評価をどのように取り組むか、立場を越えて継続議論してきました。当日は、集った方々に議論したことを聞き、ともに考えます。

コーディネーター	鈴木 綾	こおりやま子ども若者ネット
スピーカー	若者の権利に役立つ評価を学ぶ有志	

振り返り 全体シンポジウムを受けて、みんなで語り合おう

シンポジウムの議論を基に、皆さんと議論する場を設けます。感想や感じたこと議論したい事を持ち寄った場になります。*ファシリテーター在中。

ファシリテーター	土崎 雄祐	一般社団法人とちぎ市民協働研究会
----------	-------	------------------

18:00～20:00 交流懇親会 / 学生会館

一日目終了後には、参加者の皆様で交流することができる懇親会を開催します。お好きな食べ物や飲み物を手にとっていただけるマルシェや、音楽を通じた交流企画も予定しています。

Day2 2月16日(日) 9:30-17:30

9:30	実践別分科会Ⅰ(150分)
12:00	昼休憩
13:00	実践別分科会Ⅱ(120分)
15:00	分科会終了

15:15	おわりの集い
16:15	おわりの集い終了
16:30	後夜祭(検討中)
17:30	後夜祭終了

9:30～12:00 / 13:00～15:00 実践別分科会 / 第3教育棟

家族 出口が見えない家族に向けてー繋がるのが明日への一歩

家族の孤立を防ぐためにどういったことができるのか。この分科会では「生活者」として家族を捉え、「問題」よりも「強み」に着目したソーシャルワークの活動に着目し、家族を支える社会のあり方を考えてみたいと思います。

コーディネーター	谷藤 久仁子	さくら市教育委員会 SSW
	中川 健史	NPO法人仕事工房ポポロ
スピーカー	土屋 佳子	日本社会事業大学准教授 SSW
	荻津 守	栃木県済生会宇都宮病院地域連携課長 MSW

地域 若者と地域がともに変化する地域づくりとは？

「若者と地域がともに変化する地域づくりとは？」と題して、実践に込められた思いや価値観、転機に触れながら、参加する皆様が交流し、もやもやしつつ、明るく展望できるような場をめざしています。

コーディネーター	湯浅 雄偉	社会福祉法人一妻会
	伊熊 公一	とちぎ子どもの権利条約ネットワーク
スピーカー	石川 光一	株式会社国際資源リサイクルセンター
	細井 隆義	一般社団法人栃木県若年者支援機構
		県内外の実践者(調整中)

多様な学び 市民による学校づくりー多様な“学び”とは何かー

「多様な学び」には、単に困難な状況の子どもや若者への教育の支援をこえ、学習者中心の、自治や協同性を重視する実践が含まれています。この分科会では、それらの実践や実践を支える制度について議論をします。

コーディネーター	稲葉 祐一郎	小山フリースクールおたるの家
	宇賀神 雄太	デモクラティックスクールつながるひろば
スピーカー	松島 裕之	多様な学び保障法を実現する会/JYCフォーラム
	芳村 寿美子	高根沢町フリースペース「ひよこの家」

行政 自治体と民間団体の協同実践ー共に“つくる”若者支援とは？ー

若者の「生きづらさ」は、自治体だけでも、民間団体だけでも解決することはできません。自治体、民間団体双方の立場を理解した上で、両者が共にどう若者支援を推進していけばよいのかを参加者と共に考えます。

コーディネーター	小山 泰明	社会福祉法人立川市社会福祉協議会
スピーカー	朝日 華子	茨城県・福島県 SSW / NPO法人茨城居場所研究会
	津布久 久枝	佐野市役所 保健師

ピアサポート 同じ悩みを持つ仲間と手を繋ぎ、今できることを考える

本分科会では、若者支援分野におけるピアサポート実践の紹介を通して、ピアサポートの役割や価値、課題について参加型の意見交換をします。手を繋ぎ、より豊かな活動を作り出す大きな一歩となればと考えます。

コーディネーター	野澤 かなえ	カウンセリングルームとちぎねいろ
	辻岡 秀夫	NPO法人ゆどうふ
スピーカー	野澤 こなつ	不登校の今を大切にしている ing
	渡邊 厚司	とちぎセルフヘルプ情報支援センター
	奈良橋 修	生き×活きコミュニティ/県外の実践者(調整中)

余暇・文化 生きるための余暇文化ー「好きなこと」の価値と可能性

せわしない社会、自分の好きなことをしてはいけないような気になってしまうこともあります。余暇や文化は、人がはじめから持っている権利であり、生きることや社会の基盤になるもの。余暇文化を身体と言葉を通して考えていきませんか？

コーディネーター	三田 和子	とちぎ子どもの権利条約ネットワーク
	阿比留 久美	早稲田大学
ワークショップ	舘野 智子	ちぎり絵夢ゆめ
	大河原 有佳	ふくしまフリンジ
スピーカー	櫻井 龍太郎	生き方工房 necota

働く 働きたい職場ってどうつくる？

生産性向上ばかりが求められる現状において、若者を育て、ともに働き続けていくことができる職場とはどんな職場なのでしょう。職場のあり方・働き方・仕事そのもののあり方など、いくつかの実践をもとに、改めて考えます。

コーディネーター	湯本 尊	とちぎ若者サポートステーション
	高橋 薫	認定NPO法人文化学習協同ネットワーク
スピーカー	村本 知恵里	NPO法人 KIDOGS
	齋藤 幸一	有限会社アップライジング
		ワーカーズの現場から

居場所 多様な居場所をどうつくり、どう続ける？

外部の人には理解されづらい「若者の居場所」。それゆえ、「想い」だけでは維持・運営が難しいことも多々あります。この分科会では、多様な居場所をどのように作り、続けていけるのか、みんなで考えます。

コーディネーター	南出 吉祥	岐阜大学/JYC フォーラム
	菊地 修介	一般社団法人とちぎ青少年自立援助センター
スピーカー	西野 博之	認定NPO法人フリースペースたまりば
	大屋 みはる	NPO法人 KOU

障がい 障がい者支援制度ー使える？使ってる？ー

障がいのある若者を支える様々な制度がありますが、それは実際どのように使われているのでしょうか？バリアをなくし、だれもが社会参加できる支援制度のあり方、現状と課題について議論したいと思います。

コーディネーター	江連 広士	カウンセリングルーム栃木ホットロード
	中塚 史行	NPO法人教育サポートセンター NIRE
コメンテーター	山本 耕平	立命館大学/JYC フォーラム共同代表
スピーカー		調整中

性 性的少数者 セクマイ・フレンドリーな居場所、地方でどう増やす？

地方ではセクシャルマイノリティの若者たちが安心してつながり、関われる居場所が乏しいという課題があります。各地の実践や試行錯誤に学びながら、みんなでこれからやれることを探っていく作戦会議をしましょう。

コーディネーター	土橋 優平	NPO法人キーデザイン
	滝口 克典	よしみち文庫
スピーカー	近野 直子	相談室 栃木こころの架け橋
	松井 愛	フリースペースぶらいず / 山形市議
	福島 秀治	レインボーハート富山

住まい 経験者から見た共同生活

今回は、住まいの支援のなかでも、特に「共同生活」に注目します。実際に若者として「共同生活」を体験した/している経験者の話をお聞きし、そこから「共同生活」の意味や課題について考えたいと思います。

コーディネーター	栃原 晋太郎	NPO法人栃木 DARC
	岡部 茜	大谷大学
スピーカー	ショウ	NPO法人栃木 DARC
		調整中

*内容は予告なく変更となる場合があります。

